

# ほほえみ

発行 越谷市立病院  
発行人 院長 坂本 一博  
編集 院内情報誌編纂委員会  
連絡先 〒343-8577  
越谷市東越谷10-32  
TEL 048-965-2221(代)  
FAX 048-965-3019

## 「高齢者の長く続く咳は注意！」



呼吸器科副科部長  
かどや こうたろう  
門屋 講太郎

呼吸器領域で一番多い病気は、気管支喘息です。喘息は気道(空気の通り道)に慢性炎症が起こり、様々な刺激に気道が敏感になり、発作的に気道が狭くなって咳を繰り返す病気です。小児期の発症が多いですが、近年40歳以降の発症が増加しており、意外かもしれませんが高齢発症の方もおられます。2017年の調査では、成人の10.4%が喘息を患っておりました。とても多いですね。

喘息は近年治療薬の進歩が目立ち、年間死者数が1980年に6,370人だったのに対し、2023年には1,089人と5分の1以下まで減少しており、これは他の呼吸器の病気と比べるとすごい成果です。しかし喘息死の年齢をみると、89%が65歳以上の高齢者です。高齢の喘息

患者さんは、COPD(慢性閉塞性肺疾患、いわゆるタバコ肺)や心臓病などの合併症が多く、風邪など些細なことでも重症化につながります。高齢者で原因不明の咳で悩んでいる方はぜひ呼吸器科を受診してください。時には喘息やCOPD以外の病気がみつかることもあります。

喘息治療の中心は、気道の炎症を抑えて気管支を広げる「吸入薬」です。これを正しく吸入することが大切です。高齢者は視力や握力、吸入力の低下により完璧に行えない場合もあるかと思いますが、当院は近隣薬局とも連携しながら、しっかりサポートしていきます。吸入器が合っているか、補助器具を使用したほうがいいのかなど、相談しながら進めていきましょう。



# 患者満足度調査にご協力をお願いします

8月21日(木)・8月22日(金)

## 患者満足度調査とは

越谷市立病院では、患者様にご満足していただける、安心して良質な医療の提供を目指し、皆様から率直なご意見をお伺いすることを目的に、毎年患者満足度調査を実施しております。今年度も、8月21日(木)22日(金)の2日間に実施いたします。

当日の2日間につきましては、新患受付及び再来受付機付近にてアンケート用紙をお配りします。診察後に記載所で記入して回収箱へご投函ください。記載所は1階エスカレーター脇に設置いたします。また、アンケート用紙に記載している二次元コードからスマホ等でも回答可能です。二次元コードを利用した回答期間は8月27日(水)までなのでご自宅に帰ってからも回答することができます。

皆様のご意見・ご要望をお聞かせいただき、越谷市立病院を患者様にとってより良い病院にするための資料として活用させていただきます。

皆様方のご協力をぜひよろしくお願いいたします。



## 熱中症を予防しましょう

今年も暑い季節がやってきました。熱中症を防ぐには予防が一番重要です。特に高齢者や乳幼児、体調不良の方は熱中症のリスクが高いため、予防を心がけてください。

### ①暑さを避ける

天気の良い日、特に気温が高くなる日中は不要不急の外出を避けることが望ましいです。また、室内にいてもエアコンや扇風機を使用するなどして室温を適切に調整しましょう。

### ②予防行動をとる

日の当たるところでは日傘や帽子を着用し、長時間の作業や運動は避けましょう。また、こまめに水分・塩分補給をしましょう。冷たいタオルや保冷剤などで体を冷やすことも有効です。それでも熱中症になってしまったら…

### ①涼しい環境への避難

クーラーが効いている室内や風通しのよい日陰等に避難させてください。

### ②脱衣と冷却

衣服をゆるめ風通しをよくしましょう。首、脇の下、太ももの付け根を氷のう等で集中的に冷やしましょう。

### ③水分・塩分の補給

冷たい水を飲ませましょう。大量の発汗があった場合は、塩分も補給するため経口補水液やスポーツドリンクが最適です。

### ④医療機関へ運ぶ

これらの応急処置をしても症状が改善しない時や、自力で水分を摂れない、意識がいつもと違うといった症状がある場合には速やかに医療機関を受診してください。

以上が熱中症対策の要点です。みなさんで熱中症対策をして、暑い夏を乗り切りましょう。

